

## 『都市と社会』投稿規程

---

1. 『都市と社会』は、大阪公立大学都市科学・防災研究センター（以下「UReC」）が発行するジャーナルである。
2. 本誌の発行は、都市問題に関する研究論文、調査報告、UReCの活動報告などを掲載し、都市問題の研究に関する知識の共有を図ることを目的とする。
3. 本誌の編集は、UReCが選任した編集委員会が行う。
4. 本誌に投稿できる者は、次のいずれかの条件を満たすものとする。
  - ・都市問題に関心のある者
  - ・本誌の趣旨に賛同する者
5. 本誌の発行および原稿提出の期限は、編集委員会が定める。
6. 本誌には、つぎの記事を掲載する。
  - ・研究論文（投稿論文、依頼論文）
  - ・研究ノート（研究中間報告の水準）
  - ・コミュニティレポート（各都市関連の実践報告）
  - ・海外都市レポート（先進都市の施策事例や研究の紹介）
  - ・書評
  - ・論文抄録
  - ・その他、編集委員会が認めたもの
7. 研究論文、研究ノート、コミュニティレポート、海外都市レポート、書評、論文抄録についての掲載の可否については、編集委員会が判断する。
8. 原稿は、未発表のものとし、使用言語は、日本語もしくは英語とする。
9. 投稿論文については、査読を行う。査読委員（2名以上）は、論文ごとに編集委員会が選ぶ。査読結果は、1ヶ月を目処として投稿者に通知する。
10. 編集委員会は、掲載予定の原稿について、執筆者との協議を通じ、内容および表記の変更を求めることがある。
11. 原稿執筆に際しては、執筆要領を参照すること。

12. 本誌に掲載された論文などの著作権は UReC に帰属するものとし、他の出版物などに転載する場合は、事前に UReC 『都市と社会』編集委員会 ([urec-toshi\\_henshu@ml.omu.ac.jp](mailto:urec-toshi_henshu@ml.omu.ac.jp)) に届け出なければならない。

13. 『都市と社会』は、製本・出版後、大阪市立大学学術機関リポジトリで公開する。原稿執筆者は、そのことを承諾した上で投稿すること。

2018年11月1日作成

2022年9月28日改訂

## 『都市と社会』執筆要領

---

1. 本誌に掲載される研究論文は、原則として30,000字を上限とする（注、図表、写真、参考文献表記などを含む）。英文の場合は、刷り上がり20頁を上限とする。ただし、編集委員会が認める場合はこの限りではない。

2. 投稿は随時受け付け可能とし、毎年の最終締め切りを10月末日とする。

3. 本文は以下のとおりに作成する。

### ①原稿

1) 日本語もしくは英文、横書きとする。

2) A4判、1ページ35行、1行40字の様式で、ワープロソフトで作成し、Microsoft Wordの形式（doc.もしくはdocx.）で提出する。

### ②句読点

1) 和文：本文中の句点は「。」、読点は「、」。ともに全角とする。

2) 英文：半角の「.」と「,」とする。

### ③数字

1) 数字はアラビア数字を原則とし、場合に応じて漢数字とする。

2) 年号は原則として西暦で表記し、算用数字を用いる。

### ④見出し

1) 節、項、目の3つまでにとどめ、それぞれゴシック体にする。

例、節は§1、項は1-1、目は1-1-1

### ⑤図表

1) 刷り上がり1/2ページ大の場合は500字分、刷り上がり1/4ページ大の場合は350字分として換算する。

2) 図と表はそれぞれ連番を付し、簡潔な見出しをつける。(例、図 1-1.表 1-1)

3) 図表が出版物からの引用の場合は出典を明記し、必要に応じて著作権者の許可を得る。

#### ⑥注

1) 注は、本文中の該当箇所に、右肩上付きで、1)、2)、3)、・・・と順に示し、注自体は本文の後に一括して記載する。

#### ⑦文献引用

1) 参考文献は、注の後に一括して記載する。

2) 文献リストは言語ごとにわけ、著者名は、日本語の場合は、あいうえお順、英文の場合は、アルファベット順で記載する。

3) 書式は以下とする。

##### a. 邦語文献

・単行本：著者名(刊行年)『本題 副題』出版社。 ※本題と副題の間は全角空白

・単行本所収の論文：著者名(刊行年)「論文名」編者名『書名』出版社，××-××頁。

・雑誌論文：著者名(刊行年)「論文名」『雑誌名』×巻×号(または×号)，××-××頁。 ※カンマとピリオドは全角にすること。

##### b. 欧文献

・単行本：著者名.(刊行年) 書名, 出版地: 出版社.

・単行本所収の論文：著者名.(刊行年) "論文名," In: 編者名, 書名, 出版地: 出版社, xx-xx 【頁範囲】.

\*ファースト・ネーム、ミドル・ネームはイニシャルのみ、またはすべて記載のどちらでもよいが全体で統一すること。著者名は姓名の順。共著の場合 2 人目からは名姓の順。

〔例〕 Marx, K. and F. Engels または Marx, Karl and Friedrich Engels

\*翻訳のある場合については下に例示した。

\*韓国語、中国語など欧文以外の文献は全体で統一した表記をとること。

##### c. その他

・新聞記事、Web サイトについては下の例を参照のこと。短いテキストの場合はタイトルを「」(和文)、" (欧文) で囲み、本などは『』(和文)、斜体(欧文)とする。

#### 例(邦語文献、外国語文献の順)

##### ① 単行本

阿部昌樹(2003)『争訟化する地方自治』勁草書房。

Castells, M. (1977) The Urban Question: A Marxist Approach, London: Edward Arnold. (=1984, 山田操訳『都市問題 科学的理論と分析』恒星社厚生閣。)

##### ② 単行本所収の論文

阿部昌樹(2010)「自治体間競争と自治体間連携 日本」加茂利男・稲継裕昭・永井史男編『自治体間連携の国際比較』ミネルヴァ書房, 159-181 頁。

Harvey, D. (1982) "Labour, Capital and Class Struggle: Around the Built Environment in Advanced Capitalist Societies," In: Giddens, A. and D. Helds (eds.) Classes, Power, and Conflict,

Hampshire: MacMillan Press, 545-561.

③ 雑誌論文

阿部昌樹 (2013) 「法的正義と今ここでの正義」『法社会学』78号, 7-29頁。

Alinsky, S. (1941) "Community Analysis and Organization," American Journal of Sociology, 46(3), 797-808.

④ 新聞記事

「大阪モノレール9キロ延伸計画、府と東大阪市合意へ」『朝日新聞』2015年7月22日夕刊。

Bobette, A. "Occupy Central Is Really a Battle over the Idea of the City," South China Morning Post, 25 September, 2014.

⑤ Web サイト

日本学生支援機構「発達障害」

[http://www.jasso.go.jp/tokubetsu\\_shien/faq/faq11.html](http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/faq/faq11.html) (2015年7月22日閲覧)。

TWC2 (2012) Worse Off for Working? Kickbacks, Intermediary Fees and Migrant Construction Workers in Singapore, Transit Workers Count Too,

[http://twc2.org.sg/wp-content/uploads/2012/08/Worse-off-for-working\\_initial-report\\_v2.pdf](http://twc2.org.sg/wp-content/uploads/2012/08/Worse-off-for-working_initial-report_v2.pdf)

(Accessed 10 June, 2015).

4. アブストラクト

日本語500字および英文300ワードでアブストラクトを付け加えること。これらは全体の文字数に含まれる。

5. キーワード

日英各5語以内でキーワードを付けること。キーワード間は読点ではなくコンマを入れること。

6. 論文タイトル

日本語および英文でつけること。

7. 原稿提出先

大阪公立大学都市科学・防災研究センター『都市と社会』編集委員会

[urec-toshi\\_henshu@ml.omu.ac.jp](mailto:urec-toshi_henshu@ml.omu.ac.jp)

2018年11月1日作成

2019年1月16日改訂

2022年9月28日改訂